



ごみ問題を考える会

 ニュース NO. 2
2002.9.27

大豆島にある長野市清掃センター内にプラスチック圧縮梱包施設の建設が計画されている件で、長野市は大豆島住民が提出した81件の意見書を受け、9月13日記者会見をし「住民への説明会に向く」「化学物質の調査を数項目について、調査する」ということを発表しました。

この「説明会」や「調査」が形だけのものにならないよう、地域に住むみんなで、この大切な問題を考えていきたいと思ひます。



今後地域の説明会が計画されると思いますが、説明会には必ず出席して、疑問に思ったことは質問してください。黙っていると「おおむね了承された」となりかねません。

今まで説明を受けた内容を整理すると

—長野市の説明—

「杉並区は不燃ごみで、長野市は分別された容器包装です。ごみの質が違うので同じにしないで下さい」

「圧縮するだけで、熱は出ないので、化学物質が出る心配はありません。」

「杉並は地下にあり、未処理の排水に含まれた『硫化水素』が原因 長野市の場合は水を使わないので汚水の心配はありません。」

場所について、「プラスチックを選別したときに処理できない物を処分する為、どうしても清掃センター内に『プラスチック圧縮梱包施設』を造る必要があるのです。」

長野市の説明に対して

ここが **納得できません！**

ごみの種類が違う？

確かに内容的にはちがうかも知れませんが、杉並区は不燃ごみのほとんどがプラスチックで、その化学物質が原因と認定されたのであって、ビン・カン又は汚れが原因ではありません。

圧縮だけで熱もなく化学物質の心配ない？

多くの科学者が「プラスチック材料が圧縮過程でせん断破壊された結果、化学物質が生成される」と報告。国も「圧倒的多数の化学物質の毒性は未知数」としており、実際の実験で調査しないと「心配ない」とはいえない。

汚水による硫化水素が原因というのは今年6月の「公調委」の裁定で退けられました。国が認めた事実さえも、長野市は認めていません。

焼却炉と同じ場所（大豆島）で無いと困る？

更埴市に在る施設も焼却炉とは別の場所にあり、建設場所を大豆島に限定する根拠はありません。

長野市30数万人のゴミをどうして大豆島に集中させるのでしょうか。

杉並の場合は工場など周りになく閑静な住宅地だったので、化学物質も中継所から出たものと認定されましたが、大豆島の周りには様々な処理施設があり、何か起こったとしても、原因を特定するのは困難では...

「杉並病ってどんな病気？」

東京都杉並区に1996年4月不燃物圧縮・梱包施設稼働されて以来呼吸が苦しい、眼がかすむ、疲れやすいなどの症状を多くの人が訴える。施設の近くの公園に遊びにいくと眼が真っ赤になり、涙がでる。身体に湿疹が出来る。等多数の人が症状を訴える。

1996年6月 アンケート調査で42人健康不良
11月 アンケート調査で319人健康不調

当初東京都は周辺道路の排ガス、公園の添え木に浸した防腐剤等が原因だと主張した

2000年3月 次に東京都は「施設から排出された硫化水素」が原因と発表。石原と知事が謝罪のコメントを発表する。

一方、津谷裕子博士他多くの科学者の研究で「不燃ごみの大部分を占めるプラスチックが圧縮・摩擦など機械的な作用によって毒性の化学物質が発生する」ことが判明されました。

6年間に渡る被害者の訴えと支援した人たちの力で

2002年6月26日 国の公調委は東京都の「排ガス・添え木硫化水素説を退け」「化学物質による被害と認定した」

(参考資料、インターネットにて「ダイオキシン・環境ホルモン対策会議」)

「被害の原因は、本件中継所の操業に伴って排出された化学物質によるものと認められ... (略)化学物質の数は2千数百万にも達し... (公調委裁定全文より)」

化学物質が原因と裁定された画期的なものではあったけれど、認定されたのは数百人中14人のみで、今なお、操業は一度も停止されることなく続いています。



—未来を担う
子供達のために—

治療より、予防を！！



○行政と市民そして市民が推薦した検討プロジェクトをつくり、誰でも傍聴できるガラス張りの会議にし、場所の選定から考えて欲しい。

○製造している事業者の責任を条例化し、発生抑制を一番に考えて欲しい。

○計画規模の10分の1のモデルプラントを作り、化学物質、動物実験、など1年間はして欲しい。(厚木基地で行われた実験では、1年間で600倍も数値が違ったそうなので)

○広く全住民に説明し納得した上で計画を進め、一方的な説明で「おおむね了承...」とせず、住民投票などで決めて欲しい。

